

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：32809

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H06398・19K21477

研究課題名（和文）分娩期ケアにおける診療ガイドライン推奨と女性の意向・希望との隔たり

研究課題名（英文）The gap between recommendations and women's preferences for childbirth care

研究代表者

増澤 祐子（Masuzawa, Yuko）

東京医療保健大学・看護学部・助教

研究者番号：70824712

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、分娩期ケアに対する女性の意向・希望に影響する要因を探索し、分娩期ケアに対する女性の意向・希望を明らかにし、ガイドラインの推奨との隔たりを探索することを目的とした。研究方法は、フォーカスグループインタビュー（12名対象）による質的研究とアンケート調査（167名対象）を実施した。

研究結果から、ガイドラインの推奨には、女性の意向・希望を取り入れることで、より女性に寄り添った情報提供を実施でき、意思決定を支援できるだろうことが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

分娩期のケアにおいて、女性がどのような意向・希望を抱いているのか、また、どのような要因が影響するのかが分かっていない。また、どのように女性がリスクとベネフィットを認識するのかわ示した研究はない。分娩期ケアに対する女性の意向・希望に影響する要因を探索し、分娩期ケアに対する女性の意向・希望を明らかにすることで、より質の高い分娩期ケアを提供する医療の実現を目指し、女性の意向に深く寄り添った意思決定を促進することができる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate factors that influence women's preferences regarding delivery care and elucidate women's preferences regarding delivery care. This study comprised qualitative research involving focus group interviews and a questionnaire survey. The results of the study suggest that by incorporating women's preferences in the recommendations, it would be possible to implement more pro-women information provision and support decision making.

研究分野：助産学

キーワード：希望 意向 診療ガイドライン 分娩 助産ケア preference

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

世界のガイドラインをけん引する Guidelines International Network では、患者の意向・希望を調査し、広く人々の希望や価値観に関する知見が、ガイドラインの作成には必須であることを強調している。これらより、多くの患者のケア指針となるガイドラインには、患者の意向・希望を明らかにし、反映させることが必要である。しかし、患者の意向・希望の研究は少なく、多くのガイドラインに患者の意向・希望は考慮されていない。

母児にとって最良のヘルスケアを提供するために、そして女性の意思決定を支援するために、国内外で、様々な分娩期ケアのガイドラインが発刊されている (National Institute for Health and Care Excellence 2017, 日本助産学会 2017)。しかし、このガイドラインの推奨決定プロセスに、女性の意向・希望は考慮されていない。女性を中心としたケア提供、女性の意思決定に活用できるガイドラインの作成のためにも、分娩期ケアに対する女性の意向・希望を明らかにする必要がある。

我が国の女性が、分娩期のケアに対してどのような意向・希望を抱いているのか、また、どのような要因が影響するのかわかっていない。また、どの程度の効果を「効果がある」と女性は感じ、どの程度のリスクを「リスクがある」と女性は判断するのだろうか。妊娠中の女性の薬剤使用に関する認識を調査した研究 (Mulder 2017) では、薬剤を使用することによる胎児の影響への不安を抱えていることや、薬剤の種類によって女性の認識するリスクとベネフィットの程度が異なっていることが示されている。しかし、分娩期のケアにおいて、どのように女性がリスクとベネフィットを認識するのかわかっている研究はない。より質の高い分娩期ケアを提供する医療の実現を目指し、女性の意向に深く寄り添った意思決定を促進するためにも、分娩期ケアに対する女性の意向・希望に影響する要因を探索し、分娩期ケアに対する女性の意向・希望を明らかにすることは必要である。

### 2. 研究の目的

本研究は、分娩期ケアに対する女性の意向・希望に影響する要因を探索し、分娩期ケアに対する女性の意向・希望を明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究は、フォーカスグループインタビューによる質的研究とアンケート調査を実施した。本研究は、研究計画の段階で、所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得た。

#### (1) インタビュー調査

18 か月以内に出産し、日本の関東圏内にある 2 カ所の助産院を利用し、研究協力の同意が得られた女性 (分娩方法、産歴は問わない) 12 名 (グループはそれぞれ 5 名、7 名のグループに 1 回ずつインタビュー) を対象に、半構造化面接に基づくフォーカスグループインタビューを 30~40 分実施した。

インタビューガイドは、分娩遅延の際のケアに対する初産婦の意向・希望に関するインタビュー調査を行った先行研究 (Ångeby 2015) を参考に作成した。

分析方法は、意思決定を促進する要因と阻害する要因については、データを逐語録にまとめ、質的データ支援ソフト NVivo 12 Plus for Windows を用いて、得られたデータの帰納的テーマ分析を行い、意向・希望 (preference) の影響因子の抽出を行った。

#### (2) アンケート調査

12 か月以内に出産し、研究協力の同意が得られた女性 (分娩方法、産歴は問わない) 167 名を対象に、ウェブによるアンケート調査を実施した。日本の関東圏内の 2 カ所の助産院や SNS を通じて研究参加を依頼し、簡易サンプリングを行った。

アンケートの内容は、回答者の特性、分娩期ケアに関して情報収集を行う媒体、分娩期のケアを選択するにあたり必要とする情報、分娩期ケアを受けた場合のベネフィットとリスクに対する印象の 4 つの項目から構成した。

分娩期のケアを選択するにあたり必要とする情報については、児の健康への影響、母体への影響、ケアの効果について、これらをどの程度必要としているかを、「1 全く必要でない」から「9 大変必要である」の 9 段階で必要度を聴取した。分娩期ケアを受けた場合のベネフィットとリスクに対する印象については、分娩期のケアとして臨床場面で行われることの多い、分娩誘発を目的とした乳頭・乳房刺激、分娩目的で入院時の児心音聴取方法、分娩促進を目的とした人工破膜、分娩後出血量減少のための下腹部冷罨法の 4 つの助産ケアを本研究で女性の意向・希望を検討する分娩期ケアとした。ケアをどの程度受けたいと思うかについて、「1 全く受けたいと思わない」から「9 とても受けたい」の 9 段階で聴取した。ケアの意思決定をするのに十分な情報があるか、十分な情報がなければその情報は何か、効果があると判断するにはどの程度の効果なのか、についても記載欄を設けた。

### 4. 研究成果

## (1) インタビュー調査

### 属性

インタビューに参加した12名の平均年齢は、33.3 (SD=4.2) 歳だった。出産したのは、9 か月前～18 か月前の範囲だった。

### 情報収集の方法

分娩に関する処置やケアに関する情報収集の方法については、インターネットの利用が多く、中でも、医師監修のサイト、病院のサイトを閲覧するという意見が聞かれた。その他、医師や助産師、友人や家族からも情報収集を行っていた。インターネットでは主には医療者監修のサイトを閲覧するが、インターネットは、医師や助産師から得た情報の補足という意見もあった。

### 信頼できると回答した情報

産科医や助産師からの情報が最も信頼できるという意見が多く (91.9%)、続いてインターネットで収集した情報 (9.1%) が最も信頼できるという回答であった。

### ケアを受けるかどうかの決定要因

ケアを受けるかどうかを決定するのに、一番重要視するのは、児への影響であった。ケアの効果だけで判断することはないとの意見だった。

## (2) アンケート調査

### 属性

アンケートに回答した167名の平均年齢は、33.9 (SD=4.2) 歳だった。出産したのは、1 か月前～12 か月前の範囲だった。

### 情報収集の方法

最も多かったのは、友人であった (120 人)。続いて、回答の多かった順に、インターネット (医師監修サイト) (106 人)、インターネット (ブログ) (99 人)、インターネット (病院のサイト)、助産師 (92 人)、産科医 (82 人)、家族 (66 人)、雑誌 (65 人) であった。

### 信頼できると回答した情報

信頼できるという回答が最も多かったのは、産科医 35.9% (60 人) で、続いて助産師 25.7% (43 人)、友人 10.2% (17 人) であった。

### 情報の必要性

どの程度情報を必要としているかを、「1 全く必要でない」から「9 大変必要である」の9段階で必要度を選択してもらった。「9」との回答が最も少なかったのは、「ケアの効果」についてであった。

### 分娩時の処置やケアを受ける場合のベネフィットとリスクに対する印象

意思決定をするために知りたい情報は、詳しい方法や、他の手段の有無とその方法、メリット・デメリット、自身で実施可能かどうか、母乳への影響、どのような状態でどのくらいの効果があるのか、安全性、痛みの有無などであった。

### < 引用文献 >

Ängeby K, Wilde-Larsson B, Hildingsson I, Sandin-Bojö AK. Primiparous women's preferences for care during a prolonged latent phase of labour. *Sex Reprod Healthc.* 2015 Oct;6(3):145-50.

Mulder B, Bijlsma MJ, Schuiling-Veninga CC, Morssink LP, van Puijenbroek E, Aarnoudse JG, Hak E, de Vries TW. Risks versus benefits of medication use during pregnancy: what do women perceive? *Patient Prefer Adherence.* 2017 Dec 20;12:1-8.

National Institute for Health and Care Excellence. Intrapartum care for healthy women and babies. 2017. (<https://www.nice.org.uk/guidance/cg190> [accessed at 2019/10/8])

日本助産学会. エビデンスに基づくガイドライン-妊娠期・分娩期 2016. 日本助産学会誌, 2017;30; Supplement.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----